

文学を中心とした課題追究のための読みを深める授業づくり

～1年生「けむりのきしゃ」の実践～

1 設定理由

子どもたちは、教科書教材『なかよし』や『くまさんとありさんのごあいさつ』では、簡単な文章や挿絵の情報から、物語の世界に入り、場面の様子や登場人物の言動を想像し、みんなの前で発言する学習を経験してきた。朝の読書の時間は、楽しみながら短い話や絵本を中心に読んでいるが、文字よりも絵からの情報を楽しむ傾向にある。書くことに関しては、平仮名の学習に取り組み、日常生活において経験したことを絵や簡単な文で書く学習をしている。しかし、文学作品による場面の様子や登場人物の気持ちの読み取りについては、まだ経験していない。

そこで本単元では、場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、考えたことを伝え合う場を多く設定する。課題を追究する手立てとして、具体物を用いて場面の劇化を行ったり、吹き出しや短冊を活用したりする。1年生なりに友だちとの意見の相違点に気付き、話し合うことのおもしろさに気付くであろう。さらに、物語を想像しながら読む楽しさに気付き、進んで読書する態度を育てたい。

2 研究仮説

- (1) 文学作品を読み深める場面において、場面を焦点化し、具体物を用いて劇化を行う学習を設定すれば、児童は場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読み取ることができるであろう。
- (2) 文学作品を読み深める場面において、登場人物の様子や気持ちを吹き出しや短冊に「書く」学習を設定すれば、児童は場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読み取ることができるであろう。

3 研究内容

(1) 具体物を用いた場面の劇化

- ・自分の考えを伝えるために、具体物を用意して、劇化したりしながら学習する。
- ・登場人物の視点を確認し、それぞれの気持ちや様子を発表し、整理して板書する。
- ・教員が「どうして。」「どのように。」と切り返すことで、自分の考えを明確にさせる。

(2) 吹き出しや短冊を活用した「書く」活動

- ・学習の振り返りの活動として、文と文の間を想像しながら様子や気持ちを書き加えていく活動を行い、友だちの発表の言葉などをつなぎ合わせながら、場面に書き加えていくようにする。
- ・友だちの発表の言葉などをつなぎ合わせながら、それぞれの場面に書き加えていくようにする。

4 結論

- 具体物を用意し、場面を劇化したことで、登場人物の気持ちに寄り添い、想像を広げながら読み取ることができた。
- これまでの学習でまとめてきた吹き出しや短冊をもとにまとめの学習で一枚絵本をつくることで、読みの振り返りができた。
- 学習のまとめの際には、多くの児童が物語の世界に入り、楽しく想像しながら学習を進める姿が見られた。

研究主題

文学を中心とした課題追究のための読みを深める授業づくり

～1年生「けむりのきしゃ」の実践～

1 主題について

子どもたちは、教科書教材『なかよし』や『くまさんとありさんのごあいさつ』では、簡単な文章や挿絵の情報から、物語の世界に入り、場面の様子や登場人物の言動を想像し、みんなの前で発言する学習を経験してきた。朝の読書の時間は、楽しみながら短い話や絵本を中心に読んでいるが、文字よりも絵からの情報を楽しむ傾向にある。書くことに関しては、平仮名の学習にとりくみ、日常生活において経験したことを絵や簡単な文で書く学習をしている。しかし、文学作品による場面の様子や登場人物の気持ちの読み取りについては、まだ経験していない。

そこで本単元では、場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、考えたことを伝え合う場を多く設定する。課題を追究する手立てとして、具体物を用いて場面の劇化を行ったり、吹き出しや短冊を活用したりする。1年生なりに友だちとの意見の相違点に気づき、話し合うことのおもしろさに気付くであろう。さらに、物語を想像しながら読む楽しさに気づき、進んで読書する態度を育てたい。

2 主題設定の理由

『けむりのきしゃ』は、作家矢崎節夫氏の原案をもとに入門期の1年生向けに編集された学習材である。そのため文字による情報は、限られており、簡潔な文と親しみやすい挿絵により、おじいさんと流れ星の心の交流が簡潔に描かれている。そのため、文章や挿絵から場面の様子や登場人物の言動について想像をめぐらせて楽しみながら活動するのに適した学習材と言える。そこで、これまでの学習を生かしながら、楽しく想像し、物語の世界に浸れるように、文章や挿絵から想像したことを文と文の間を読みながら対話を通して書き加えていく学習を行う。物語の内容を読み深めていくために、言動や挿絵から心情の変化を想像しやすい「おじいさん」の視点を中心に意識して読み進めていく。

また、本単元は学習指導要領第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の目標「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」に基づき、指導事項ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を受けて設定されている。

3 研究仮説

- (1) 文学作品を読み深める場面において、場面を焦点化し、具体物を用いて劇化を行う学習を設定すれば、児童は場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読み取ることができるであろう。
- (2) 文学作品を読み深める場面において、登場人物の様子や気持ちを吹き出しや短冊に「書く」学習を設定すれば、児童は場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読み取ることができるであろう。

4 研究内容

(1) 単元名 想像を広げて読もう

心に残った場面を話し合い、おじいさんの行動や様子から気持ちを想像して読み深めていきます。

(2) 学習材 けむりのきしゃ(1年上・教育出版)

(3) 単元について

第一次では、繰り返し音読をしたり挿絵を見たりしながら、お話のあらすじなどの基本的な構成要素をつかむ。そして子どもたちの感想をもとに学習の見通しをもつようにする。

第二次では、まず場面ごと文章や挿絵をもとに想像を膨らませる。場面を焦点化するには具体物を用いて劇化することで、登場人物の気持ちを読み取っていく。一から三場面では、おじいさんの行動や様子から気持ちを想像して読み取っていく。文章や挿絵から想像したことを文と文の間を読みながら対話を通して、吹き出しや短冊に書き加えていく。四場面では、流れ星に読みの視点に移る。読みの視点が変わることに気を付けて読み取っていく。教員の支援として、挿絵や文章からの情報を解きほぐし、子どもたちの想像をいかに広げるかが大切になる。場面の内容を理解しやすいように、本文を何度も読み、視写したり、場面ごとの挿絵に注目させたりしながら考えさせるようにする。

第三次では、最後の場面におじいさんの喜びや気持ちを書き加え、一枚絵本を作成し、学習の振り返りを行う。

(4) めざす子ども像にせまるための手立て

めざす子ども像

- ・自分の思いや考えをもてる子
- ・学習材の基本的な構成要素を理解し、様子を想像豊かに読める子
- ・考えを明確に表現できる子
- ・良いところを伝え合いながら学び合える子

① 学びをつなぐための手立て

- ・個々に考えがもてるようにするために、場面ごとの文章や挿絵を繰り返し読む。また、自分の考えを伝えるために、具体物を用意し、場面を劇化しながら学習を進める。
- ・「ながれぼし」の視点と「おじいさん」の視点を確認し、想像した様子やそれぞれの気持ちを発表し、整理して板書する。
- ・教員が「どうして。」「どのように。」と切り返すことで、自分の考えを明確にさせる。
- ・最後の場面では、書き加えた文章を二人組になって紹介し合う。そして、良いところに付箋を貼るようにし、意欲を高めていく。

② 読みを質的に向上させるための「書く」活動

- ・学習の振り返りの活動として、文と文の間を想像しながら様子や気持ちを書き加えていく活動を行う。
- ・この時期の子どもたちは、書くことが難しい子ども達も多い。そこで、一斉授業を中心に進め、友だちの発表の中でよかった言葉などをつなぎ合わせながら、それぞれの場面に書き加えていくようにする。

③ 日常の言語生活の耕し

- ・声に出して読むことに慣れ親しむようにするために、教科書の文章や詩の音読を繰り返し行う。
- ・ステップタイム等で短い文を音読したり、視写したりしながら様々な表現に親しめるようにすると同時に、言葉に興味を持ち、語彙を増やすようにする。

(5) 単元の目標

(関心・意欲・態度)

- 『けむりのきしゃ』の文や挿絵を基に、場面の様子や登場人物の言動について楽しみながら想像して文を書き加えている。

(書くこと)

- 「おじいさん」「ながれぼし」の視点から、語と語のつながりのある文を書き加えることができる。

(読むこと)

- 場面の様子や「おじいさん」「ながれぼし」の言動について、想像を広げながら読むことができる。

(伝統的な言語文化に関する事項)

- 敬体で書かれた文章になれることができる。
- 句読点の打ち方や、かぎかっこの使い方を理解することができる。

(6) 単元の指導と評価の計画 (8時間扱い 国語8時間)

過程	時	主 な 学 習 活 動	◎支援 ●評価 ・留意点
第一次 つかむ	1	○全文を通読し、言葉の意味や登場人物をおさえ、物語のあらすじをつかむ。 ・ながれぼしがおちてきたよ。 ・おじいさんがみつけたんだね。	◎範読により全体を通読し、言葉の意味や登場人物をおさえ物語に関心を持たせる。 ・絵と文を照らし合わせながら読み聞かせる。
	2	○心に残った場面や疑問点を話し合い、学習問題を立てる。 ・やさしいおじいさんだね。 ・ながれぼしがそらにかえってよかった。 みんなでくわしくはなしあうことをかんがえよう。 ・やさしいおじいさんのところがおいね。 ・ながれぼしは、どんなきもちだったか。	◎絵から物語のあらすじを確認し、登場人物に視点を当てて感想を話し合うようにする。 ・挿絵の中にネームプレートを置き、心に残った場面を表し、根拠を絵と文から見つけていくようにする。 ・おじいさんとながれぼしの二人についての問いを考えさせたい。

		たのかな？ ・けむりのきしゃって。	●あらすじをおさえ、人物について自分の考えや疑問をまとめている。（観察・発言）
第 二 次 深 め る	3	○おじいさんのやさしいところを見つけ、話し合う。	◎絵と文から、おじいさんの行動や様子に着目して焦点化するとともにおじいさんのやさしさを想像し、まとめていくようにする。 ・挿絵を用意し、物語の展開を把握させる。 ・おじいさんの気持ちを一文書き加える。その際には、書き出しを指定する。 ●課題について自分の考えをもち、人物の気持ちを文にまとめようとしている。（観察・話し合い・ノート） ◎友だちの考えと自分が思っていたことを比べてみるよう投げかける。 ・発言の根拠をはっきりさせながら、疑問を投げかける。 ●自分の考えと友だちの考えを比べながら話し合い、人物像をまとめようとしている。（観察・話し合い・ノート）
	4	おじいさんのやさしさがわかるところをみんなではなしあおう。 ・あわててえんとつからおりたんだよ。 ・ながれぼしをえんとつのてっぺんにおいてあげたよ。 ・けむりにのせたいんだ。 ・どんなふうにおいたのかな？ ・とってもいそいでいる。 ・たくさんのまきがいるね。 ・がんばってもやりたいんだよ。 ・ながれぼしをたすけてあげたいんだ。 ・そらのいろがかわってきたから。・あさになるまえに。	
	5	○けむりのきしゃに乗っているながれぼしの様子や気持ちを想像し、話し合う。 けむりのきしゃにのっているながれぼしのきもちをはなしあおう。 ・ながれぼしがけむりのきしゃにのっているよ。 ・きらきらひかっているね。 ・きっと、うれしいんだよ。 ・たすかったんだ。 ・おじいさんにおれいをいいたいんだよ。 ・ことばやきもちをもっとかいてみたいな。	◎読みの視点を变えて、ながれぼしの気持ちを考えてみるよう投げかけ、話し合いを進める。 ・挿絵に着目し、ながれぼしの様子を話し合いながら、その時の気持ちを考えさせる。 ・「おじいさん、ありがとう。」の文が入った吹き出しを用意する。（続きのものと前後のもの2種類） ・机間指導をしながら、書き加えた文を紹介する。 ●視点の変化に気づき、人物の気持ちを想像し文にまとめようとしている。（観察・発言・吹き出し）

第三次 ふり 返る	6	○最後の場面におじいさんの気持ちを	◎これまでの学習を振り返って、おじいさんの 気持ちを想像し、文を書き加えるよう投げか ける。 ・最後の場面が絵本の1ページになることを紹 介する。 ・できあがった児童を音読の練習をする。 ●これまでの学習をもとにして、新しいお話の 世界をつくろうとしている。 (観察・作品) ・ふたりぐみでおたがいのさくひんをよみあお う。
	7	書き加える。 さいごのばめんのおじいさんのき もちをそうぞうしよう。 ・おじいさんは、ながれぼしにどん なことばをかえすのかな。 ・よかったね。ながれぼしさん。 ・またきてね。さようなら。 ・また、あえるといいね。	
	8	○できあがった最後の場面を音読し 合って、お互いの作品を鑑賞する。 ふたりぐみでおたがいのさくひん をよみあおう。	

5 研究の実際

(1) 本研究に関わる本時の指導の実際(8時間扱いの第3時)

おじいさんのやさしさがわかるところをみんなで話し合います。

①目標

○おじいさんのやさしさについて本文や挿絵から読み取り、想像したことを話し合うことができる。

②仮説にせまるための手立て

本時では、おじいさんのやさしさがわかる表現を第二場面の本文や挿絵から読み取っていく。おじいさんが空から落ちてしまったながれぼしにしてあげた親切な行動について着目し、おじいさんの気持ちを楽しく想像することをねらいとしている。

そのために、おじいさんの行動や様子に着目して焦点化していく。教員が「どうして」、「どのように」と児童の発言に切り返すことで、自分の考えを明確にし、お話の世界を楽しく深く想像させていく。また具体物を用意し劇化することで、物語の展開を把握させるとともに、物語の世界に入り込み、おじいさんの気持ちに寄り添うことができるようにする。また、吹き出しや短冊を用いて「書く」活動を行い、自分の考えを整理し読みを深めていく。

③展開

時配	学習活動と主な主発問(○)・反応	学習形態	◎支援 ●評価 ・留意点
5	1 前時のふり返しを行い、本時の学習の見通しをたてる。 ○みんなが心に残ったところは、どこでしたか。 ・おじいさんが、えんとつのでっぺんにながれぼしをおいた場面。	一斉	・前時までの学習をまとめた掲示物を確認させ、ふり返しを促す。 ◎おじいさんのやさしさについてこれからみんなで学習していくことを確認する。

5	・おじいさんが、急いでまきをもやしはじめるところ。やさしいとおもいました。 2 本時のめあてを確認して、音読する。	一斉	・目的をもって音読することを伝える。
15	おじいさんのやさしさがわかる ところをみんなではなしあおう。 ○おじいさんは、どんなことをしたのか読んでみましょう。 ・えんとつのでっぺんにながれぼしをおいたよ。	一斉	・物語の展開を把握させるために、挿絵を用意する。
15	3 本文や挿絵からおじいさんの行動や様子に着目し焦点化、おじいさんのやさしさについて想像し話し合う。 ○おじいさんは、ながれぼしをどのようにえんとつにおいたのかな。 ・じめんへおちないようにおいたんじゃないかな。 ・けむりにのってそらへいけるようにおいたとおもう。	一斉	◎ながれぼしをどのようにえんとつに置いたかを具体物を用い、劇化することで、おじいさんに寄り添った考えができるようにする。 ◎視覚的に理解しやすいように挿絵を活用する。 ◎発言の根拠をはっきりとさせるために「どうして」、「どのように」と切り返し、想像を促す。
15	4 本文や挿絵からおじいさんの行動や様子に着目して焦点化し、話し合ったおじいさんの気持ちを整理し、文と文の間に一文でまとめる。 ○おじいさんはどんなことを考えてながれぼしをえんとつにおいたのかな。 ・おじいさんは、ながれぼしがおちないようにやさしくおきました。 ・おじいさんは、けむりにのせられるようにながれぼしをおきました。	一斉 個別	・これまでの子どもたちの発言をもとに見本を板書し、読ませ、活動に見通しをもたせる。 ・吹き出しや短冊を複数枚用意し、加除訂正を行いやすいようにする。 ・活動の中で机間巡視を行い、適宜採り上げ、紹介することで考えを広げ、促す。 ・おじいさんの気持ちや様子を想像して一文書き加える。 ●課題について自分の考えをもち、人物の気持ちを文にまとめようとしている。 (観察・話し合い・ノート)
5	5 本時のまとめと次時の見通しをもつ。 ○今日の学習でおじいさんのどん	一斉	・まとめを行い、認めることで次時の活動の見通しをもてるようにする。

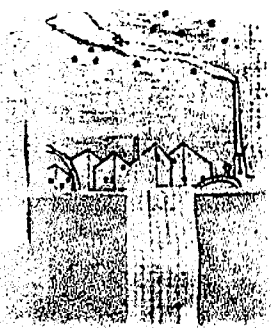
	なやましいところがわかりましたか。 ・おじいさんは、ながれぼしがそらにもどれるようにやさしくおきました。		
--	--	--	--

④板書計画

おじいさんのやさしさがわかるころをみんなではなしあおう。	けむりのきしや	二の場面の挿絵 ○おちないように ・ふちにひっつけた。 ・そつとおいた。	おちないように、そつとおきました。 ○けむりにのれるように ・けむりにのせる。 ・かざむきはどっちかな。 ・けむりはどっちにな	かざむきをかんがえて、おきました。 ながれぼしがおちないようにえんとつのふちに、ひっつけました。
-------------------------------------	----------------	--	---	--

(2) 単元のまとめ

過程	時	主な学習活動	手立てとその考察
第一次	1	○全文を通読し、言葉の意味や登場人物をおさえ、物語のあらすじをつかむ。	・範読により全体を通読し、言葉の意味や登場人物をおさえた。絵と文を照らし合わせながら読み聞かせていくことで物語に関心をもって取り組むことが出来た。
つかむ	2	○心に残った場面や疑問点を話し合い、学習問題を立てる。  心に残った場面や疑問の可視化	・挿絵から物語のあらすじを確認し、登場人物に視点を当てて感想を話し合うようにした。 ・心に残った場面にネームプレートを置き、根拠を絵と文から見つけることで心に残った場面を表し、根拠を絵と文から見つけていくことで、あらすじをおさえ、人物の自分なりの考えや疑問をまとめようとする姿が見られた。

第 二 次 深 め る	3 ○おじいさんのやさしいところを見 4 つけ、話し合う。 	・絵と文から、おじいさんの行動や様子に着目して焦点化するとともにおじいさんのやさしさを想像することで、おじいさんに寄り添い考えることができた。 ・挿絵を用意することで、物語の展開を把握しやすくなり、おじいさんの気持ちを一文書き加えることができた。 ・友だちの考えと自分が思っていたことを比べてみるよう投げかけたが、難しいようだった。一人読みの時間を十分確保し、自分の考えをもった上で話し合えるようにしたい。
第 三 次 ふ り 返 る	5 ○けむりのきしゃに乗っているながれ 6 ぼしの様子や気持ちを想像し、 7 話し合う。 ○最後の場面におじいさんの気持ち を書き加える。 	・子どもたちの発言に「どうして」、「なぜ」と切り返すことで、発言の根拠をはっきりさせることができた。 ・読みの視点をおじいさんからながれぼしに変えることでお互いの関係についての理解が深まり人物の気持ちを想像し文にまとめようとしている姿が見られた。 ・挿絵に着目することで、ながれぼしの様子を話し合いながら、その時の気持ちを考えさせることができた。 ・これまでの学習を振り返り、おじいさんの気持ちを想像することで、文を書き加えることができた。
	8 ○できあがった最後の場面を音読し 合って、お互いの作品を鑑賞する。  お互いの作品を読みあう姿	・最後の場面が絵本の1ページになることを紹介し活動の見通しをもたせることで、これまでの学習をもとに、進んで新しいお話の世界をつくらうとしている姿が見られた。 ・できるだけ多くの友だちと交流することで、読み方や書いたことなど、友だちのよさに気付くことができた。しかし書いた内容についての感想が少なく、今後は観点を示しながら、作品の内容についての感想がもてるようにしていきたい。 ・いろいろな作品を通して、新たな物語の世界を楽しんでいる姿が見られた。

6 成果と課題

(1) 成果

- 具体物を用意し、場面を劇化したことで、登場人物の気持ちに寄り添い、想像を楽しみながら考えることができた。
- これまでにまとめた吹き出しや短冊をもとにまとめの学習で一枚絵本をつくることで、これまでの読みをふり返ることがで、読みの評価につなげることができた。
- 学習のまとめの際には、多く児童が物語の世界に入り込み、楽しく想像しながら学習を進める姿が見られた。

(2) 課題

- 場面を劇化することで楽しく想像することができたが友だちの意見と比較し、自分との相違点や類似点について考える児童は比較的少なかった。一人読みの時間を設け、自分の考えをもたせた上で交流していく。
- 語彙力を高め、様々な表現ができるようにするとともにステップタイムや朝のスピーチ等を活用し、読み深めるために対話する力を高める。
- 児童の読みの傾向を探っていくことで、どこを焦点化し学習を進めるのか教材研究を深めていく。

資料

- 1 具体物を用いた劇化の様子
- 2 吹き出しの例
- 3 短冊の例
- 4 一枚絵本の例
- 5 本単元を終えた児童の感想

1 具体物を用いた劇化の様子

児童の発言

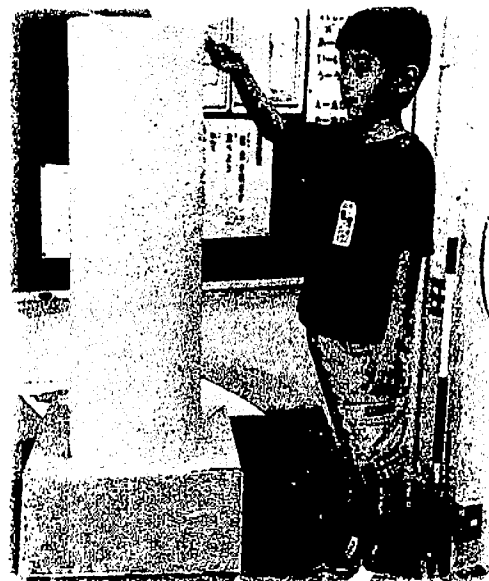
- ・ 右に置いた。
- ・ 左に置いた。
- ・ えんとつにひっかけるようにして置いた。
- ・ そっと置いた。
- ・ 優しく置いた。
- ・ 寝かせるように置いた。
- ・ 真ん中だと穴に落ちちゃうから端に置いた。
- ・ 風の向きも考えて置いた。
- ・ 友だちや家族のいる方に置いた。

考察

- ・ 右か左かに拘っている児童が多くみられた。おじいさんの優しさに気付くため、補助的な発問として「どこに置いたか」と聞いたがここでは、「どのように置いたか」という聞き方のほうが、おじいさんの優しさや心情に迫ることができたのかもしれない。
- ・ 劇化することで、普段あまり発表できない児童も進んで挑戦する姿が見られた。また言葉が十分でなくても、劇を見ている児童に「どうしてだろう？」と切り返すことで一斉形態の授業の中でも話し合いを活性化することができた。
- ・ 短冊の内容と劇化した際に話し合ったことがよく結びついていて、そのため劇化の際には発問や切り返しを工夫していくことが必要である。劇化したことで、児童の想像を膨らまし、書くことの原動力となっていた。



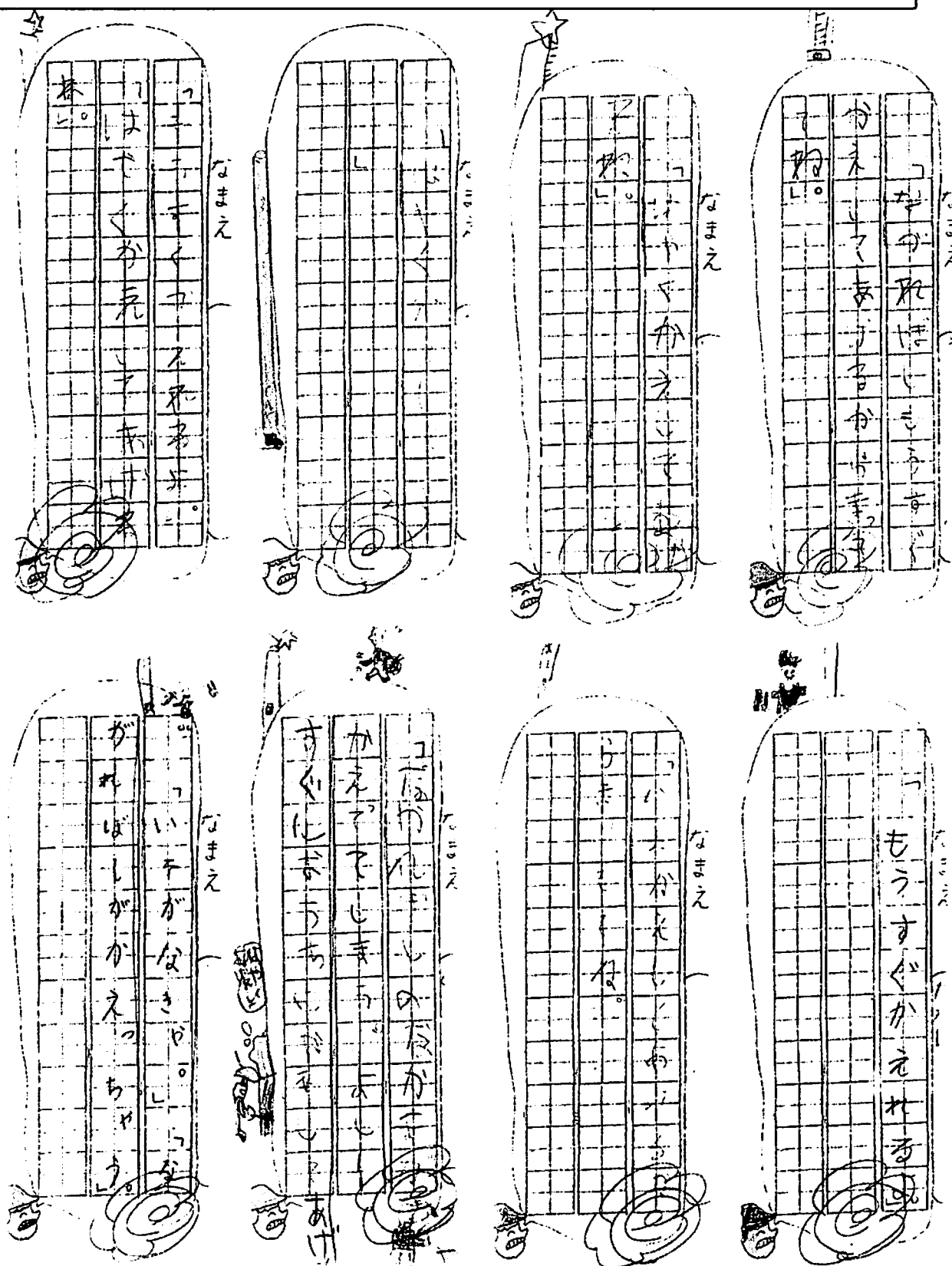
えんとつにひっかけるように置いたと発言した児童



寝かせるように、そっとおいたと発言した児童

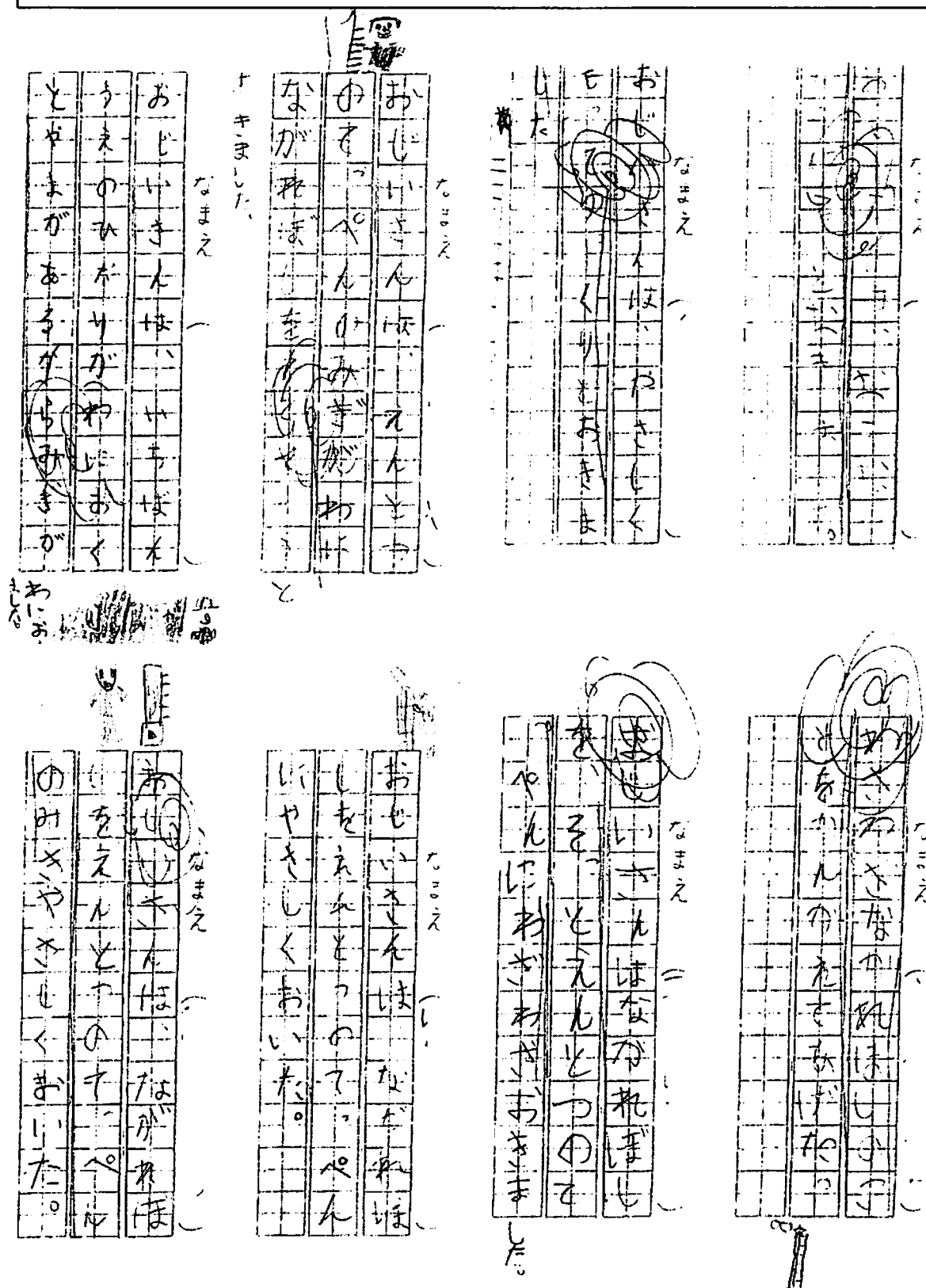
2 吹き出しの例

3の場面の文と文の間に入るおじいさんの言葉を挿絵や叙述をもとに想像し、まとめた。特に児童は挿絵に注目し、おじいさんがまきを持って走っている様子や空の色が赤くなってきたことなどからおじいさんが一生懸命にながれぼしを空に返そうとしている優しさを読み取ることができた。



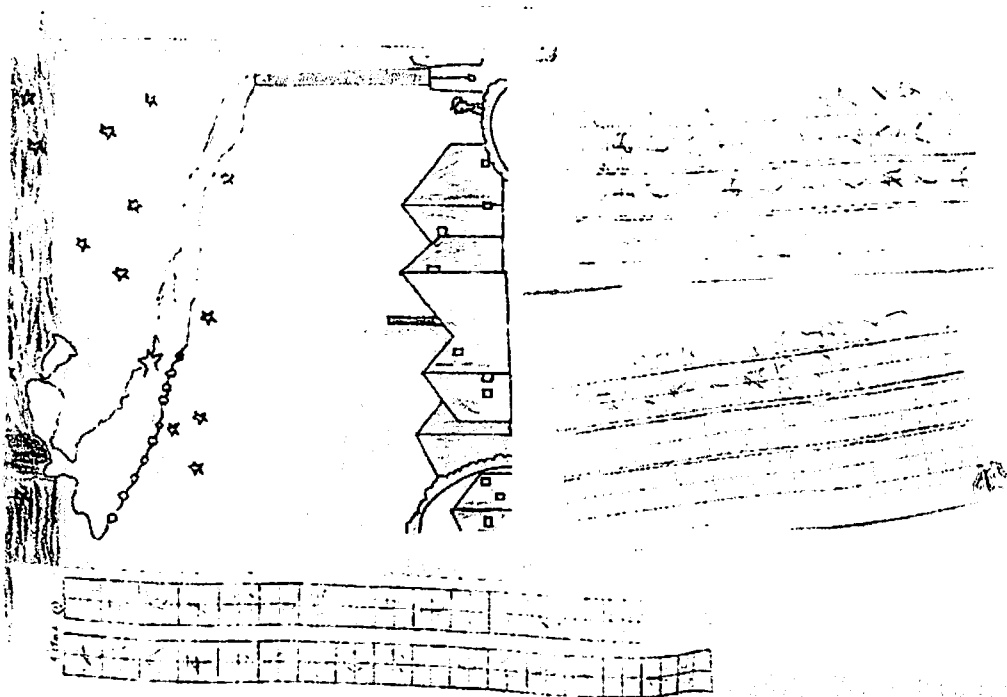
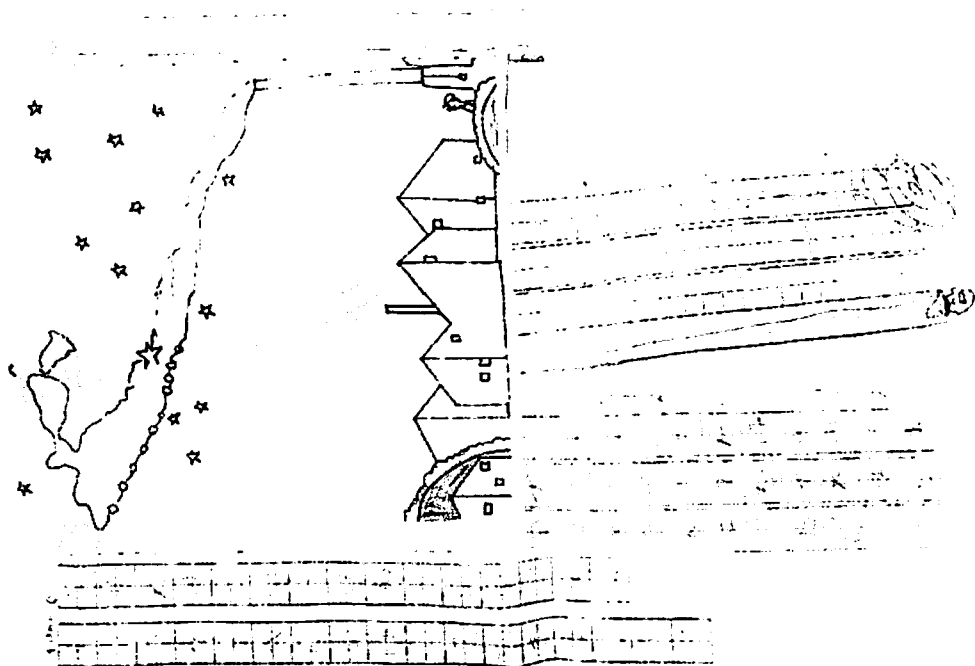
3 短冊の例

2の場面の文と文の間に入るおじいさんの言葉を挿絵や叙述をもとに想像し、まとめた。
また具体物を用いて場面の劇化を行った。そこで話し合う話題となったおじいさんの優しさについて、自分なりに想像して書くことができた。



4 一枚絵本の例

これまでの学習を振り返り、最後の場面の文と文の間にお話を書き加え、一枚絵本を作成した。おじいさんの優しさやながれぼしの気持ちを想像して作品に表現することができた。空の色塗りからも読み取った内容がうかがえた。児童が作品の世界に入り込み、楽しく想像しながら取り組む様子が見られた。



5 本単元を終えた児童の感想

劇化について楽しかった、心に残っているなどの感想が多く見られた。自分自身が劇化したことだけでなく、友だちの劇を見ることが楽しかったという感想も見られた。具体物を用いて劇化することで、おじいさんの優しさについて意欲的に想像することができた。

た ち う か
 。 ば え お ん
 ん に じ そ
 こ ほ い う
 こ し さ
 う を ん
 に お が
 の い え
 こ た ん
 り の と
 ま が つ
 し い の

ま か な か
 し え り お ん
 た し れ じ そ
 。 た ぼ い う
 の し さ
 が を ん
 い お が
 い い え
 と て ん
 お そ と
 も ら つ
 い に に

て し ば か
 す し え ん
 。 も ん そ
 お と う
 い つ
 ？ の
 ん う
 の え
 し に
 う ゃ
 っ が
 な れ

の は
 を え ん
 み ん そ
 れ と う
 て つ
 た を
 の っ
 し か
 か っ
 っ て
 た い
 。 る

た ち か
 。 さ お ん
 こ い じ そ
 が ざ い う
 よ ま さ
 が で ん
 っ た が
 け す な
 。 け ぐ
 て ん
 あ ぼ
 げ し